医療法人桜花会　醍醐病院 院内報

春号
2017.vol.23

さくら通信

琵琶湖疏水口／岡崎

NEW OPEN

特集 桜花会心理カウンセリングルーム

INDEX

1 | トピックス：新年度 院長挨拶
2 | 特集：NEW OPEN 桜花会心理カウンセリングルーム
3 | 委員会紹介：医療安全対策委員会
4 | リレーコラム

新年度
院長挨拶

院長　的場　祥人

2017年度の年頭にあたり、
的場院長より挨拶の言葉をいただきました。

さまざまな報道を見ておりますと、平成の時代もいよいよ終わりに近づき、近年中に皇位は継承され新しい元号の時代が始まりそうな様相になってまいりました。今までの約29年間は、明治、大正、昭和とは異なり、幸い大きな戦禍に巻き込まれることはなかったものの、歴史に残るような大災害には幾度も見舞われ、福島の原発事故の収拾の見通しは全く立っておらず、暗い記憶と共に将来に大きな課題を残した一面がありました。

また同時に、平成はIT分野の画期的な進歩の時代であったとも思います。特にこの10年間は、インターネットの発展とスマートフォンの普及により、人類がいまだ持ち得なかった情報世界が広がりました。かつてSFやスパイ映画ですらも描かれなかったようなコンパクトな道具を、小学生でも当たり前のように手にし、一般の個人が全世界スケールでの情報発信や収集が可能な時代が到来しています。

人工知能分野の進歩も凄まじく、チェス、将棋に続き、難題と言われていた囲碁でも人間では立ち向かえないレベルに至り、自動車の自動運転は技術的に9割以上既に実施可能、医学分野でもまだ実験段階とはいえIBMの「Watson」が驚異的な能力を発揮して難病を一瞬で診断するなど、熟練医を凌駕し始めているとの報道もされています。

さまざまな問題解決の場面で、人間の理解力を超えた結論をコンピューターに出された場合、それが正しい可能性が高くとも、全て正解である確証もなく、人間の知力では誤りの指摘も修正も困難な場面が出てくるかもしれません。映画『ターミネーター』で描かれたような、コンピューターに人間が支配されるような状況も、あながち絵空事とも言えなくなってきました。

醍醐病院で電子カルテを導入したのが約8年前、当時まだ精神科診療場面で電子カルテは普及しておらず、京都ではたまたま当院がその先駆けになったのですが、精神科診療に果たして電子カルテが馴染むのかなどという意見や議論もありました。今や診療科を問わず全ての医療スタッフが電子カルテで教育、研修を受けて世に出て来る時代であることを考えると、わずか数年前の真面目な議論が既にピンぼけとなった感があります。

セキュリティーの問題が大き過ぎることと法制度的な問題も検討課題ではありますが、

当院の現行のシステムのままでも、病院スタッフの自宅PCやモバイル端末を利用し、病院から離れたところからカルテにアクセスすることは可能で、あとはスマートフォンのテレビ通話機能を用いれば、時間も場所も問わずに患者さんの診療が実施可能な段階にはなっています。

これからの精神科医療は入院から在宅へ徐々にシフトしていくことは必然的な流れです。診療形態の変化や医学的進歩につれて、さらに進んだIT技術が利用されることは必然です。しかし高度なITといえども、所詮は便利な道具に過ぎません。いつでもつながる利便性や情報の質、量、伝達の速度が重要であることは言うまでもありませんが、すぐそばに支援する人がいる安心感はかけがえのないものだと思います。役立つ技術はどんどん取り入れながらも、それらだけで事が終わるのではなく、お互いの心や肌の温かみまでが伝わるような人間的な医療を実現していきたいと切に思います。

院長　的場　祥人

NEW OPEN 桜花会心理カウンセリングルーム開設

平成29年1月4日、桜花会心理カウンセリングルーム　が桜花会クリニックの向かいにオープンしました。
カウンセリングルームの特徴について、臨床　心理士の小東功英氏にお話を伺いました。

臨床心理士　小東功英

この度「桜花会心理カウンセリングルーム」が開設しました。

現在、社会において心の問題やストレスに関する関心が高まり「人間関係に悩んでいる」「子育てに悩んでいる」「仕事や学校に行きたくない」「生きづらさを感じている」「過去に抱えたままの葛藤を解消したい」「ストレスとの付き合い方を学びたい」「自分の考え方や行動を変えたい」など、さまざまな思いを抱え、問題の解決やつらさの軽減を希望する方が増えています。

カウンセリングの必要性を強く感じる中、当カウンセリングルームはその要請に応えることができるものと考えております。また、当医療機関での医療との連携を必要とする方、他院に通院中の方、医療を必要としない方も希望でカウンセリングを受けることができます。

私自身、学生時代の一時期「カウンセリングで、本当によくなるのだろうか」と懐疑的になるころがありました。しかし経験を積み重ねていく中で、クライエントが良くなる姿に何度も出会い、認識を改めるようになりました。これからも、日々研鑽を積み重ねていくことは当然のことですが「桜花会心理カウンセリングルーム」開設を機に、気持ちを新たに運営に励んでいきたいと思います。

カウンセリングルームではどういったことが実際に行われているのか、その流れを簡単に説明します。

1 まずは、来談されたクライエントから語られる話をお聞きする。

2 クライエントの全体像を理解し、どういう情報を入手すればカウンセリングに役立てられるのかを考え、侵襲的にならないよう配慮しながら自然な流れの中で話をお伺いする。

3 得られた情報をもとにアセスメントし、クライエントの抱えている問題、ニーズ、その方の持っている力に合わせた心理療法※を選択する。

※心理療法…認知行動療法、精神分析、来談者中心療法、箱庭療法など、他多数

4 50分のカウンセリング後、カルテ作成を通じて分析し直し、次回のカウンセリングにつなげる。

5 問題の解決やつらさの軽減について、カウンセリングなしでもやっていけると判断できれば終結。

当カウンセリングルームでは、得意分野の異なる7名の臨床心理士がカウンセラーとして、小学生の子どもから高齢者まで多種多様なクライエントに対応したカウンセリングを提供しております。まずクライエントの抱えている問題について、十分にお話を伺った上で最適な技法を選択し、クライエントと一緒に問題を整理し、解決に向けての糸口を探っていきます。

また、通常のカウンセリング室2部屋に加え、主に子どもを対象とした遊戯療法※用にプレイルームを設置したのも特徴のひとつです。今後は個人カウンセリングだけではなく、集団療法などさまざまな試みも可能ではないかと考えています。

※遊戯療法…遊びを通じて、心理的問題の解決やコミュニケーション、自己表現の促進を目指す療法。

独立したカウンセリングルームでのカウンセリングはクライエントの金銭的負担は増えますが、かえって自分の問題を解決しようというモチベーションがより高まるというメリットもあります。また他院にかかっておられる方でも、自身の希望でカウンセリングを受けられるようになったこともメリットのひとつです。医療を必要とされる方の場合は、医師をはじめ他職種と臨床心理士の連携のもとで支援を受けていただくこともできます。

最後になりましたが、今回カウンセリングルーム立ち上げに際して、さまざまな方にお力を貸していただきました。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今後とも、桜花会心理カウンセリングルームをどうぞよろしくお願いいたします。

桜花会心理カウンセリングルーム
開室　月～土曜日　10：00～18：00
ＨＰ　http://oukakai-coroom.jp/

医療安全対策委員会

医療安全対策委員会は、毎月第1金曜日に開催しています。各部署から提出されたインシデント・アクシデントレポートを振り返り、事例の把握とその対策の検討を行っています。院内研修も年2回実施しています。

インシデント・アクシデントレポートの提出数は年々増えており、皆さんの医療安全に対する意識が高くなっていることがうかがわれます。大きなアクシデントの報告はないものの、細かなインシデントが毎月数多く報告されています。

私たちは、インシデント・アクシデントを再発させないための取り組みを考えなければなりません。どのような状況で、どのような行動を取ったことがインシデント・アクシデントを招いたのか、原因を分析し、対策を立て直す必要があります。

ただインシデント・アクシデントレポートというと「反省文」的なイメージが強いと思います。しかし、失敗体験を具体的・客観的に掘り起こして記載することで、その原因と対策は浮き彫りになっていきます。環境要因も熟慮していけば、より具体的な改善策を講じることもできます。これらの厄介な作業が、インシデント・アクシデントの再発防止につながると考えています。

またインシデント・アクシデント対策として「ダブルチェック」の活用もよく聞かれます。しかし、複数の目で見ているつもりでいて、実際には確認できていなかったケースも多く報告されています。

間違いは誰にでも起きるものです。日ごろから自分の傾向を意識して、忙しいときには一息いれて行動するような心のゆとりも持っていたいものです。

委員会メンバー

委員長　的場　祥人
（管理室）　久下　俊夫・古賀　良一
（薬局）　坪田　悦子
（栄養課）　亀田　清子
（デイケア）冨田　武志
（看護部）　小島　信雄・瀬野　雅也・東　由紀子・西澤　一秀

私の好きなもの　6病棟

故郷

私の故郷は島根県の西南端にある、山口県との県境に位置する鹿足郡津和野町。鹿足郡は、過疎化が進んでいる田舎です。鹿足郡出身者には、森鴎外（小説家・評論家・翻訳家・軍医）や西周（哲学者）といった歴史的な人物をはじめ、森英恵（ファッションデザイナー）や安野光雅（画家・装丁家・絵本作家）、澄川喜一（彫刻家）等、日本を代表する有名人も輩出しています。そうそう、最近ではお笑い界からニッチェの江上敬子も出てきています。

津和野といえば山陰の小京都といわれ、京都の伝統である鷺舞いや流鏑馬を受け継いで現在も行っている街でもあり、天空の城で竹田城が有名になっていますが、津和野城跡も天空の城といわれています。また、城跡に向かう中腹には太鼓谷稲荷神社（日本五大稲荷）もあり、京都の伏見稲荷に似た雰囲気もあります。毎年5月から、山口から津和野へSL貴婦人号が走っており、山頂の城跡から蒸気を噴きながら走る機関車を見るのもとても絶景で大好きです。この場所からの風景は、歌手のさだまさしが幼少のころ、父親（島根県三隅出身）の戦友会で何度も津和野に訪れたとき、城跡に登り見た風景を「案山子」の詞にしたそうです。

太鼓谷稲荷神社

太鼓谷稲荷参道

田舎へ帰省の際の交通手段は何通りかありますが、津和野へは車の場合、山陽道から宮島・錦帯橋回りで岩国から津和野に。新幹線なら新山口駅から蒸気機関車に乗って津和野益田へ移動するルートがおすすめです。また、萩や秋芳洞へも1時間半ほどで行ける場所でもあり、友達や家族で帰省した際は、これらの場所を巡りながら旅行気分を味わっています。

鷺舞い

故郷は山に囲まれた盆地で、冬にはたくさんの雪が積もる場所でもあり、夜寝ている間に吐く息で布団に水滴が付くこともあります。そんな寒い所ですが外に出ると満天の星空で、山と星が間近に見え、手が届くのではないかと思うくらいきれいです。また街の中心を川が流れており、家から川まで100mほどしかないことから、子供のころは蛍を追いかけ、川に入り石の中に手を突っ込んで魚を捕って遊んでいた記憶があります。特に小学校のころから鮎釣りをするようになって、夏は毎日のように川に通っていました。今でも、車で15分も行けば渓流、30分も行けば海といった、釣り好きには最高の立地条件なので、帰省の際は必ず竿を持って山や川、海をウロウロしています。

津和野城跡

そんな自然の多い田舎が今も好きです。

リレーコラム　Column